

第18回 中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い 遺族・孟憲法さんを迎えて10月19日に開催しました



第18回中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集いは、雨が心配されたが晴れ間ものぞく天候に恵まれて、中国から遺族・孟憲法さんをお迎えして開催された。始めに故人となった360人に黙とうし、主催者の挨拶に続いて、来賓のご挨拶をいただいた。その後、二胡の演奏の中、参加者全員が献花した。53人が参加して360人の苦難に想いを馳せ、中国人強制連行の歴史を継承し誤った歴史を繰り返さないことを誓い合った。

集い終了後は、善福寺で営まれた追悼法要に25人が参加した。



主催者挨拶をする足立修一継承する会世話人代表



木村富美安芸太田副町長



魏有美中国駐大阪副総領事



頼信直枝広島県教職員組合執行委員長



藤井慧心善福寺住職



末田健治
安芸太田町議会議員



田島清安安芸太田町議会議員



金子哲夫広島県原水禁代表委員



大谷育平広島県日中友好協会副理事長

孟憲法さん あいさつ文（日本語訳）

皆様、こんにちは。

私は孟憲法といいます。中国河北省大名県から来ました。私の父は強制連行されて西松で労働させられた孟昭恩です。父はまた原子爆弾の被害者でもあります。父は中国では八路軍の戦士でしたが、抗日戦争中に日本軍の捕虜になって中国から日本の安野発電所に運ばれて労働者にされました。日本で1年あまりの間ずっと地獄のような苦しみを受けたと父から聞きました。すぐに殴られたり蹴られたりして、こん棒で殴られるのはいつものことで、まったく人間味がなかったそうです。

父は 1993 年にこの地を訪ねました。私は父が日本から持ち帰ったビデオテープの中で父が何回も泣いている姿を見て、父は強制連行されていたときに苦勞し難儀した光景を思い出したのだろーと思いました。私は 2011 年 10 月に和解事業の第 2 回訪日団に参加してこの地を訪ねましたが、父のビデオテープの光景を思い出して、私も悲しみがこみあげて辛い思いになりました。父はこの地で大変な苦しみを受け、本当に九死に一生を得て、命を拾って帰ってきたのです。

中国の生存者、遺族、ボランティアの人びとと日本の友好的な人びとが長年にわたって努力を重ねて、西松建設と和解しました。父も黄泉の国で私たちの努力は無駄ではなかったと思っているでしょう。父はずっと心にかけていましたから。

今日、私はここに来て、河北大学の劉宝辰教授と川原洋子さん、そしてご来席の平和を愛し戦争を望まない皆様にとっても感謝しています。

私は、歴史の教訓を汲み取り、歴史に厳格に正面から向き合うことを希望し、呼びかけます。私たちは戦争を起こさないように最大の努力をしなければなりません。私たちは平和を望み平和を愛しています。中日友好を世々代々にわたって伝えていきましょう。

最後に、ご来席の友好的な皆様方、どうぞ中国に遊びにおいでください。ありがとうございました。

安野中国人受難者遺族 孟憲法

2025 年 10 月 19 日



父・孟昭恩さんの名前を指さす



遺族として挨拶する



献花し中国式の作法で礼をする



木村富美安芸太田副町長（左端）に挨拶